

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明る
いまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる
楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫
る美しいまちをつくります。



編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

◇新しい年に向かって

まず始めは、ジョージ・オーウェルの『1984年』。鋭い文明批評で知られる小説家オーウェルが1949年に思い描いた未来は、権力と機械が支配し、はるか彼方の国で戦争が続いている、皮肉に満ちた逆ユートピアでした。

現代を考える本として、TIM E誌編『模倣する大國日本』、中岡哲郎『人間と労働の未来』などがあります。

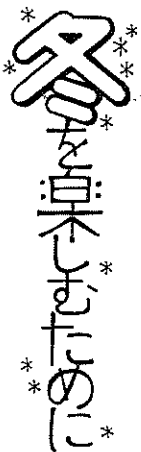
◇ページを繰る楽しさ

本を読むことは、ページを開きまだ見ぬ世界へ進んでいくことでもあるでしょう。その楽しさを生かした本に、フィリップ・モリソン編『パワーズ・オブ・テン』があります。この本では、自由に伸び縮みする縮尺を持つ眼によって、巨大宇宙から微小宇宙までの駆け足の旅が鮮やかに展開します。

安野光雅『旅の絵本』もそんな楽しみを持つ本です。最近第四巻が出版されました。

◇現代文学の話題作

大江健三郎がわが子と共に歩んだ二十年を描いたのが、新作『新



最近刊行された本を中心に

しい人よ眼さめよ』です。この作品は、ブレイクの詩、息子の言葉、作者の言葉が響き合った、言語による音楽であり、大江健三郎の転機を示していると思えると、津島佑子氏が賞讃しています。

ほかにジェームズ・クラベルの『23分間の奇跡』、志賀かう子の『祖母・私の明治』などがよく読まれています。

◇お正月に遊ぶ本

ゲームの本をいくつか紹介しましょう。

百人一首に関する本はたくさんありますが、ここでは角川文庫版『百人一首』を紹介します。

見開き二ページに一首ずつの構成と、豊富な索引がついて便利な本です。

福島県の一主婦が書いた『ゲームおぼえの子育て日記(数島妙子著)』は、生活の中で思いついた親しみやすい家族ゲームの本。マニア向けには、流行のバックギャモンなどを載せた松田道弘『ふたりで遊ぶ本』があります。

ちよつとものぐさな人は、板根

厳夫『遊びの博物誌』を読めば、すっかり遊んだ気分になれるでしょう。

(児童書)

グレード別に紹介します。

◇幼児向

木村正子『おちよさん』は、栃木県北部の村に住む小さいおばあさんの話。白い米粒を噛みながら



おちよさんの語る少女時代は、はるかな昔となつてしまいました。

◇小学校低学年向

『カエルにタバコをすわせた』は、小学生岡村正孝君の実験の記録です。ていねいな観察に感心すると同時に、カエルのおなかを真黒にしてみようタバコの恐ろしさに、はっとするでしょう。

◇小学校中学年向

島田アツヒロ『やきものができまるまで』は、白黒の図柄で地味に描かれた味わい深い本です。日本の伝統工芸をささえる人たちの心が伝わってくるようです。

◇小学校高学年向

今から二十四年前に生まれた名作『だれも知らない小さな国』に始まり、書き続けられた佐藤さとるの『コロボックル物語』は、第五話『小さな国のつづきの話』でいよいよ完結します。今回の主人公、図書館員の正子さんと、前作から成長した登場人物が出会い、物語はどのように幕を閉じるでしょう。

◇中学・青少年向

ジーン・アウルズの『大地の子エイル(上・中・下3冊)』。クロマニヨンの少女エイルの足跡をたどりながら、人類の起源という遠大なテーマに取り組みます。六部構成となる予定の『始原への旅立ち』の第一部です。

もっともいろいろな本を読みたい人は、グレード別読書案内の『どの本読もうかな1・2・3年』『同4・5・6年』『同中学生』で、読書の世界をさらに広げましょう。

「図書館をめぐる8団体」紹介

◇宇都宮子どもの本連絡会

この会は、市内の地域文庫が加入して昭和55年発足し、現在加入団体は20になりました。

「公共図書館と連携し、会員相互の交流と研修を深め、文庫活動を盛んにし、子どもと地域住民のためのよりよい文化環境をつくること」が目的。主な事業は図書館との共催で行った「子どもの本を考える講座」とテーマを設けて行ったロビー展などです。栃木子どもの本連絡会では、中心的な役割をつとめ、静かながら着実な実績をあげてきています。

◇栃木子どもの本連絡会

栃木子どもの本連絡会は、昭和53年宇都宮絵本図書館が県内の文庫等と呼びかけて発足しました。



「子どもの科学の本」かことし氏

子どもの科学の本の分野において、第一人者である加古里子氏を迎え、十一月六日(日)第二回「子どもの本を考える」公開講座が行われました。

発足時は加入13団体でしたが、現在は37団体にまでふえました。子どもの本を軸とする集まりで、文庫・読書会・創作の会などが参加し、年三・四回の機関紙の発行や交流会、文庫訪問などを行っています。

◇ボランティアグループ

目の不自由な人たちにも図書館を利用していただくために、市民の中から集まったボランティアの方々が活躍しています。テープ吹き込みや対面朗読をする朗読ボランティア(104人)、本を点訳する点訳ボランティア(84人)の人たちです。

図書館開館の昭和56年7月から約半年に及ぶ講習を修了した後、実際の活動にはいりました。翌57

年に講習を受けたグループも加わり、これまでに二百二十冊の点字本、四百七十八本のテープ図書、九種類延べ九十八本の定期刊行テープを作成しました。

現在は月一回の勉強会を続けながら、市立図書館の身障サービスの一環としてがんばっています。

◇点字製版グループ「あけぼの会」

点字製版機の導入により、点字の大量印刷の仕事を一手に引き受けるために発足しました。現在「広報うつのみや」「館報としよかん」の点字版を作っています。会員は、栃木県立盲学校の先生と、講師の梶原ゆみ子さんをはじめ点訳ボランティアのみなさんです。

◇うつのみや児童の会

56年度に図書館で行った「児童足のいくものでなければならぬ。本には、作者の肉体的なもの(人生観・思想)があらわれている。子どもと本の間をとりもつには、おしつけではなく、自発性をほめることが大切である。」講演後には、活発な質疑応答があり、盛会のうちに幕を閉じた。

文学の創作教室」受講生を母体に、市内の同好者が加わって発足しました。月一回の定例会、「ふらここ」「ぶらんこ」二種の同人誌等、活発な活動を続けています。会長の高橋秀雄さんを始め、会員の創作が相次いで受賞し、実力をつけてきています。

◇宇都宮すいひつの会

56年度の「すいひつを楽しむ講座」をきっかけに、随筆愛好者たちが集まり発足しました。同人誌「あけぼの」の発行、例会、合評会などの活動をしています。会長は大出京子さん、会員は77人です。

◇読み聞かせの会

58年度の「民話・伝説の読み聞かせ講座」の際に発足の話があり、図書館の読み聞かせボランティアを中心と始まりました。会長は島田勝江さん。月一回の定例会を行い、児童室や集会室でのおはなし会は子どもたちの人気を集めています。会員は55人です。

◇手づくり絵本の会「ポコアポコ」

この会は「手づくり絵本講座」に参加された方が絵本づくりの魅力にひかれ、自分達も会の名(だんだん)という意味の音楽用語のように少しずつ手作り仲間をふやし、子供に温か味のある絵本を与えたいということで作られた会

です。今年の11月に発足したばかり。現在17人で、月一回第一日曜日に活動しています。会長は、星野美紀子さんです。

貸出券を正しく使っていたために

○転居や結婚で住所、電話番号、名まえなどが変わった方。なるべく早めに図書館にお知らせください。宇都宮市内から転出するカードは使えなくなりますので、図書館にお返しください。

○貸出券は一人一枚、三年間有効です。折ったり汚したりしないよう、大切に使用してください。紛失したら必ず届出を。

リクエスト
???????? リクエストカードを書くとき、必ず書いてほしいのは、書名と出版社名です。書名が正確でないと「そういう本は出版されていません」ということにも。出版社名も重要です。係でも、できる限り調べますが、なかなかわからないと、それだけお待たせしてしまいます。新聞の切り抜きなどを添えていただくと助かります。

文庫ぶどう ④

特色ある文庫活動

ら図書を寄贈していただいて発足し、現在、園児に週一回二冊ずつ貸出をしています。

福田 子ども劇場は、劇、音楽等

司会 きょうは、個性のある文庫

の代表の方々にお集まりいただき

ました。まず、活動内容は？

榎本 私たちは、自分達の素材を持ち寄り、木曜日の午前中、弱視の人達を対象にしたさわり絵本を作成し、古賀志盲学校にお贈りしています。

古橋 幼稚園児と保護者との話し

合いの機会

が持てれば

と考え、当

初各家庭か



古橋さん

○ボランティア昭和

発足 昭和五十四年四月

所在地 昭和分館内

代表者 榎本栄子(Ⅷ21一八室)

会員 七名

活動日時 木曜日午前時～十時

○たけのこ文庫

発足 昭和五十六年十二月

所在地 上戸祭町三三〇一五

(ほうとく幼稚園内)

代表者 古橋茂次(Ⅷ65一三三)

の舞台観賞の理解を深めるうえで

本が必要となり、文庫が発足しま

した。また、子どもと親と青年と

いう異年齢同士の仲間づくりの場

ともなっています。

司会 皆さんの運営の方法は？

古橋 保護者会の中の文庫係が運

営しています。本を買うため、廃

品回収や、寄贈本の整理をやつて

いただいています。

司会 廃品回収は、年に何回ぐら

い行っているんですか。

古橋 年四回です。送迎バスを利

会員 園児全員

開庫日 月曜日、木曜日

○子ども劇場文庫

発足 昭和五十五年五月

所在地 大通り根本ビル三階

子ども劇場事務局内

(Ⅷ35一5002)

代表者 和気まこと

会員 千四百人

開庫日 日・祭日を除く毎日

午前十時～午後六時

用しています。

福田 私たちの文庫は、文化部の

活動の一つ

として、サ

ークルの代

表者が会費

を納入に来た際に、本を貸し出し

ています。

榎本 会員が直接借りることは少

ないんですね。

福田 そうです。文庫は、こども

劇場に附随したものであつて、劇

などを観賞した際の発展学習に、

本を読むわけです。

古橋 副本はあるんですか。

福田 ありますが、皆が利用する

と、本が足りなくなりますね。

司会 図書館の団体貸出は、一回

に百冊まで、一カ月間借りられま

す。冊数、期間は相談に応じます。

福田 今後利用したいと思ひます。

榎本 私たちは、文庫というより、

ボランティア活動の色彩が強いん

です。

司会 苦労する点も多いのでは？

榎本 はい。例えば、同じ犬であ

っても、ページによって大きさが

違つてもいけないんです。それと

会員が少な

いので、一

冊完成する

のに相当な



榎本さん



福田さん

日数を要しますね。

福田 生徒さんや、一般の人達の

反響はどうですか。

榎本 盲学校の卒業生に、こうい

う絵本が欲しかった、と言われた

時には感動しました。また、昨年

市立図書館でのロビー展後、一般

の方の反響が大きく、たくさん

の激励のお手紙をいただきました。

古橋 図書館にも、コーナーを設

けて、長期間置いていただけたら

良いですね。

司会 手作り絵本も同じですが、

は、マンガを厳選しておいて

いくということになりました。

また、マンガの選定に際し、

協議会の意見を徴することに

なり、第二回協議会(11・19)

では「画本西遊記」の購入が

認められました。

目録箱

問 マンガをおいてほしい。

答 目安箱集計結果(56・6・

20・57・9・1)によれば、

マンガに関する要望が全体の

二割を占め、利用者がマンガ

に対し、高い関心を持つてい

ることがわかりました。

この問題について、他市の

状況を調査研究(表1・2参照)

し、図書館協議会に諮った結

果、今年度第二回協議会(9・

30)で次の結論を得ました。

マンガの選定基準等今後検

討しなければならぬ点はあ

りますが、基本的方向として

は、マンガを厳選しておいて

表2 (設問)マンガを公共図書館におくことについて

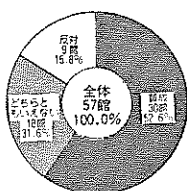
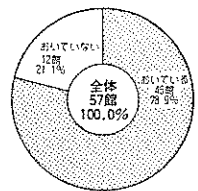


表1 (設問)マンガをおいて



(注)調査対象館は、人口30万人以上の都市の市立図書館中央館(政令指定都市除く)及び東京23区の区立図書館中央館62館中回答館57館

図書館に置いて、多くの方にみて

もらいたいと思います。

榎本 目標にして頑張ります。

古橋 私たちも、子ども達に、良

い本を見せてあげるよう、努力が

必要ですね。(全員うなずく)

司会 ありがとうございます。

出席者

榎本栄子(ボランティア昭和、

代表)

古橋茂次(たけのこ文庫、代表)

福田史子(子ども劇場文庫、文庫

担当)

一日館長 無事終了

去る十月三十日(日)子供一日館長の行事が行われました。当日のチビッコ館長六名は、十時から集会所で行われた表彰式の後、記念撮影・職員への訓示・館内視察・本の貸出等を行い、昼食をとって昼すぎに解散しました。

すいひつ講座

講師 奥野健男氏(文芸評論家・多摩美術大学教授)

テーマ 「エッセイと小説」

日時 12月3日(土)

午後3時～5時

場所 市立図書館二階集会所

定員 120名

手作り絵本講座

今年2月10日に県文化奨励賞を受賞した、益子町在住の児童文学者、岩村和朗氏を迎えて、「手作り絵本講座」を開催します。

日時 昭和58年12月4日(日)

午後1時30分～3時30分

定員 120名

受付 11月25日(金)から先着順受付

会場 市立図書館二階集会所
受講料 無料

映画会

日時 昭和59年1月22日(日)

第1回上映 午後一時から

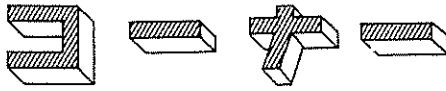
第2回上映 午後四時から

場所 市立図書館二階集会所

定員 150名(先着順)

入場無料

題名 「二〇〇一年宇宙の旅」(百五十二分)



我妻玲子さん

読書推進賞を受賞

栃木子どもの本連絡会会長、我妻玲子さんが文庫設立、絵本図書館設立への参加、県内文庫の連絡会の組織化など、子供の本を中心にした読書運動が認められ、このほど、読書推進賞を、受賞されました。

この賞は、毎年全国各地から二人以内の人が選ばれますが、県内では初めての個人受賞です。

貸出状況

	58年10月	58年度累計 58/4~58/10
登録者数	1,448人	70,148人
貸出人数		
館内	20,108	139,699
視聴覚	2,190	14,843
館外	3,775	23,835
計	26,073	178,377
貸出冊数		
館内	61,704冊	420,989冊
視聴覚	4,758	31,311
館外	15,801	99,725
計	82,263	552,025

10月の 1日あたり 1ステーションあたり
館内 館外
貸出人数 929人 34人
貸出冊数 2,769冊 141冊

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日 国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

○年末年始の休館

昭和58年12月28日

昭和59年1月4日

本の返却は玄関横のブックポストをご利用ください。

●移動図書館車の運休

昭和58年12月18日

昭和59年1月9日

この期間中は蔵書の入替や整理のため、移動図書館車はお休みになります。ご協力ください。

59/1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	①⑥	①⑦	18	19	20	21
22	②③	24	25	26	27	28
29	③④	31				

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					①	2
4	⑤	6	7	8	9	10
11	①②	13	14	15	16	17
18	①⑨	20	21	22	23	24
25	②⑥	27	②⑧	②⑨	③④	③⑤

寄贈

阿部邦男「山陵に対する竹口栄斎の影響」・田辺昇吉「北関東成辰戦争」・川井照司「川井照司詩集」・鈴木慎「建築空間と造形」・大野信貞「人間野」・柴山アサ子「歌集喜寿を過ぎるの折々に」・宮崎アヤ子「ベトナム秘密指令」ほか・栃木県立盲学校「点字のますあけ」、その他多数。

ボランティア製作

あたらしい本

テーパー図書
▽ドリトル先生月へゆく(石井武子)▽ひとり立ちした小さいサムライたち(小荷田多美子)▽黒人文学の周辺(峰岸欣子)▽香具師の旅(木立とみ)▽宮本武蔵五(須藤秀代)▽なべ料理・汁もの(丸山恭枝)▽洋風・中国風煮込み料理(黒川敏子)

点訳図書

▽眠る盆(四十物恵子・水内須美子)▽無名匿名人名簿(岡田百合子)▽セロひきのゴースト(北川典子)▽言葉あそびうた(倉井道子)▽やさしいびんぼう神(水島久美子)▽栃木のむかし話(増渕清美)